平成２４年度全国学力・学習状況調査

学力調査の結果概要

平成２４年度４月１７日実施

調査の概要

（１）調査の目的

ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況調査を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

（２）調査内容

Ⅰ…教科に関する調査　　小学校：国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）
国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）
理科　（主として「知識」・「活用」に関する問題）
中学校：国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）
国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）
理科　（主として「知識」・「活用」に関する問題）

Ⅱ…アンケート調査　　児童生徒対象・学校対象

（３）調査対象

小学校第６学年（高石市：７校　児童数：６２８人）　中学校第３学年（高石市：３校　生徒数：５０８人）

（４）調査実施日

平成２４年４月１７日（火）

（５）調査結果の取扱いについて

○本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。

○本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。

○平成２４年度調査は、抽出調査及び希望利用方式で行われています。全国の抽出率が約３０％になるよう調査校がランダム抽出されており、都道府県毎に平均正答率が９５％の確率で誤差１％以内となるよう抽出率を設定し、以下に記載された大阪府及び全国の数値が算出されております。

平成２４年度　本市の校種・教科・区分別正答率

小学校		平均正答率		
		高石市	大阪府（公立）	全国（公立）
国語	A区分	82.0	80.5	81.6
	B区分	50.7	53.4	55.6
算数	A区分	73.8	74.2	73.3
	B区分	58.4	58.4	58.9
理科		57.7	57.8	60.9

中学校		平均正答率		
		高石市	大阪府（公立）	全国（公立）
国語	A区分	75.7	73.1	75.1
	B区分	57.1	59.1	63.3
数学	A区分	62.3	60.2	62.1
	B区分	47.8	45.9	49.3
理科		49.2	47.8	51.0

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

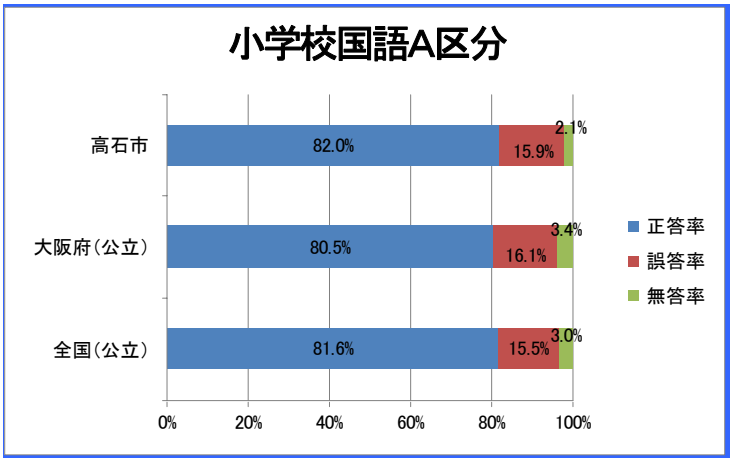
平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

◇A区分（主として「知識」に関する問題）については、小・中学校の国語・算数（数学）ともに全国平均を上回る結果が出ています。B区分（主として「活用」に関する問題）については、小・中学校の国語・算数（数学）ともに全国平均を下回る結果となっています。

◇理科については、小・中学校とも全国平均を下回る結果となっています。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要　【小学校】

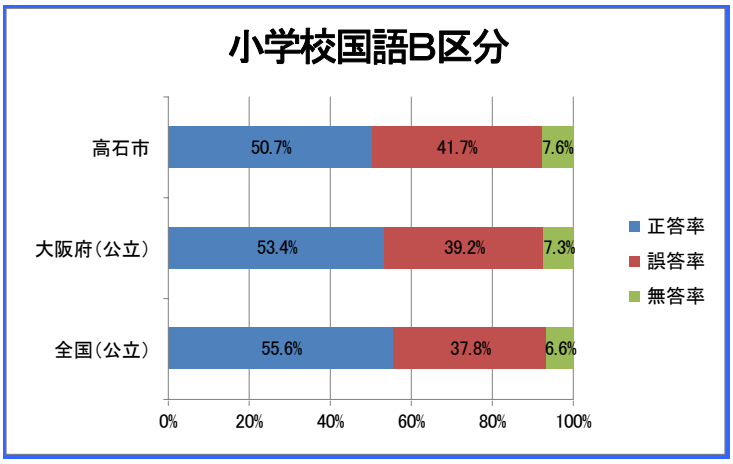
小学校国語　結果から見えてくる課題



A区分問題（主として「知識」に関すること）

◆全国の平均正答率が 81.6%であるのに対し、高石市は82.0%であり、0.4 ポイント上回った。

◆無答率においては、全国の状況より 0.9 ポイント低くなっている。



B区分問題（主として「活用」に関すること）

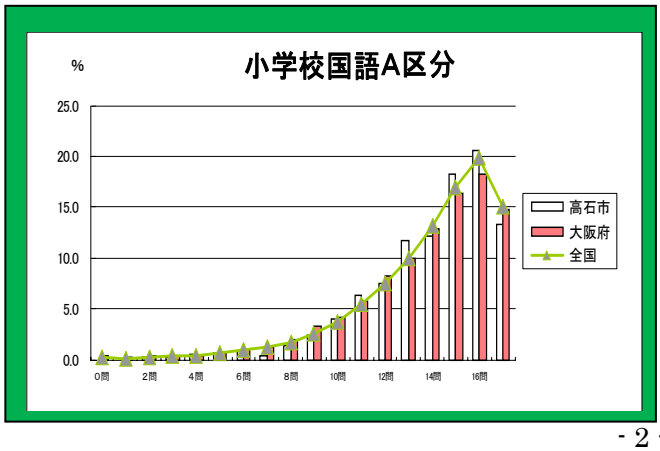
◆全国の平均正答率が 55.6%であるのに対し、高石市は50.7%であり、4.9 ポイント下回った。

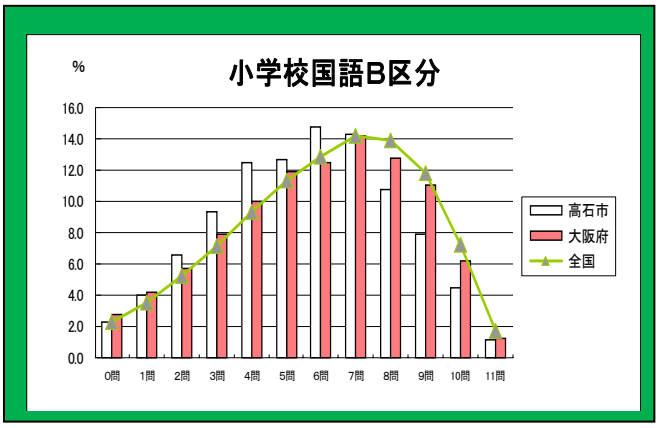
◆無答率においては、全国の状況より１ポイント高くなっている。

◆正答数の分布については、下のグラフ①《緑色枠》より、A区分（主として「知識」に関する問題）は、全国と概ね同じ傾向であることがわかります。その一方、B区分（主として「活用」に関する問題）では、全国に比べて分布の山が左寄りになっており、全体的に課題があることが分かります。

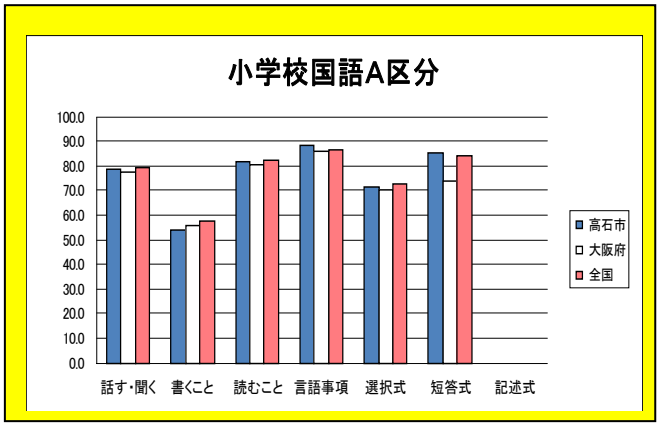
◆領域別にみると、次ページのグラフ②《黄色枠》より、A 区分・B 区分の正答率を全国と比較すると、A区分の「言語事項」「短答式」の問題では、全国を上回りますが、その他のほとんどの項目で全国を下回る結果になっていることが分かります。

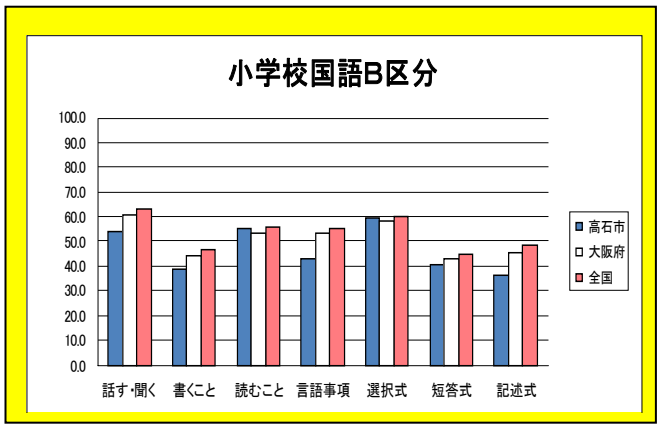
グラフ①：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ





グラフ②：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ





※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略標記しています。

A区分に見られる課題等について

◆A区分（主として「知識」に関する問題）において、昨年に引き続き、漢字の読み・書き、筆順等の「言語事項」の領域、「短答式」の問題では、全体的に高い正答率となっています。

◆昨年の課題であった「読むこと」については、改善がみられます。しかし、設問別でみると、新聞の報道記事のリードを書くという「目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く」問題では、全国に比べて正答率が低く、「書くこと」の領域に課題があります。

◆もう一つの課題であった無答率については、今年度、全国よりも低い数値となり、改善がみられます。課題が見られた問題についても、正答率は低くなったものの、無答率は全国平均と変わらない数値になっております。これは、結果として誤答になってしまったが、答えを書こうとした様子がうかがえます。

B区分に見られる課題等について

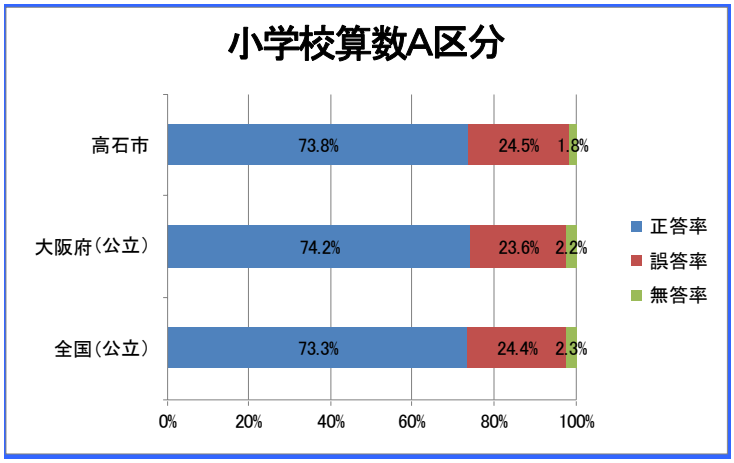
◆B区分（主として「活用」に関する問題）において、本市の正答数の分布は中位層が多く、高位層が少ない状況で全国よりも分布の山が左寄りになっていることが分かります。また、低位層の人数でも全国を上回っています。

◆領域別にみても、全国と比べて、全体的に正答率が低くなっています。

◆設問別としては、「目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書く」、「資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表するように記述する」、「複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えを記述する」など、「書くこと」「言語事項」の領域、「記述式」の問題に大きな課題が見られ、文章や図、グラフが複合的に組み合わさった問題文から、「目的に応じて必要な情報を適切に取り出し、与えられた条件にそって答えを書く」といった「マルチモーダル」な問題が課題であることが分かります。

◆無答率について、依然、全国よりも数値は高くなっていますが、差は縮まり、改善がみられます。

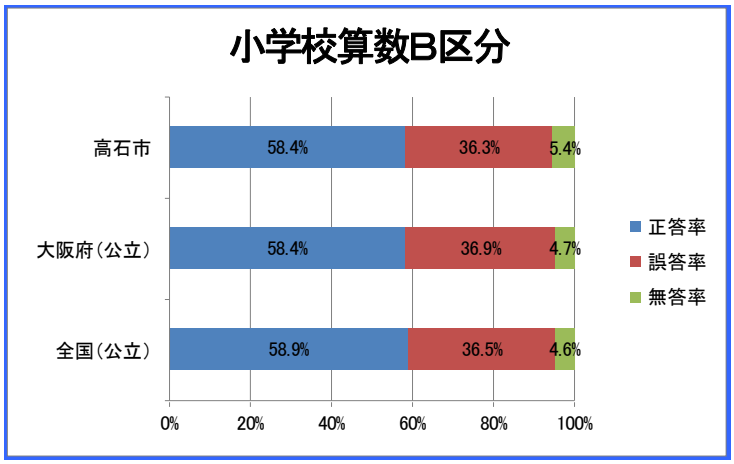
小学校算数　結果から見えてくる課題



A区分問題（主として「知識」に関すること）

◆全国の平均正答率が 73.3%であるのに対し、高石市は73.8%であり、0.5ポイント上回った。

◆無答率においては全国の状況より 0.5ポイント低くなっている。



B区分問題（主として「活用」に関すること）

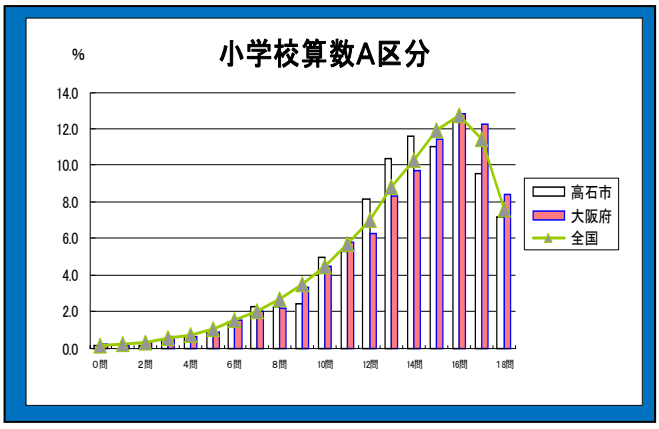
◆全国の平均正答率が 58.9%であるのに対し、高石市は 58.4%であり、0.5 ポイント下回った。

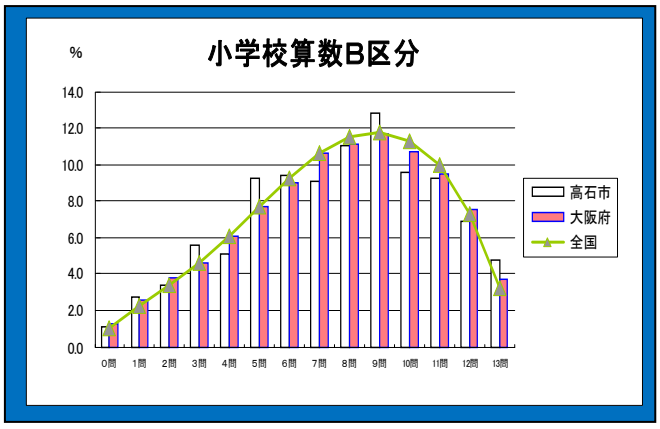
◆無答率においては全国の状況より 0.8 ポイント高くなっている。

◆正答数の分布については、下のグラフ③《青色枠》より、A 区分（主として「知識」に関する問題）・B 区分（主として「活用」に関する問題）ともに、概ね全国と同じ傾向であることが分かります。

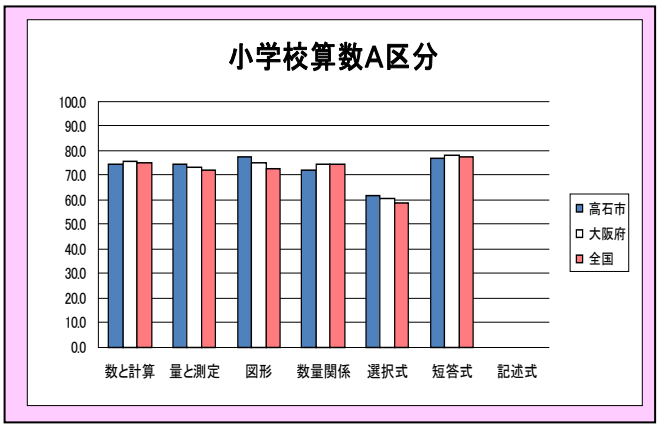
◆領域別にみると、次のページのグラフ④《桃色枠》より、A 区分は、概ね全国と同じ傾向であることが分かります。一方 B 区分では、「図形」の領域や「選択式」「短答式」の問題で正答率が低くなっていますが、「記述式」の問題の正答率が全国と比べて高くなっていることが分かります。

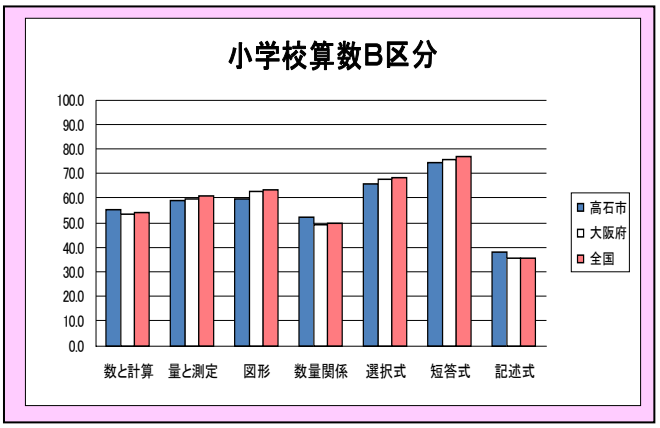
グラフ③：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ





グラフ④：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ





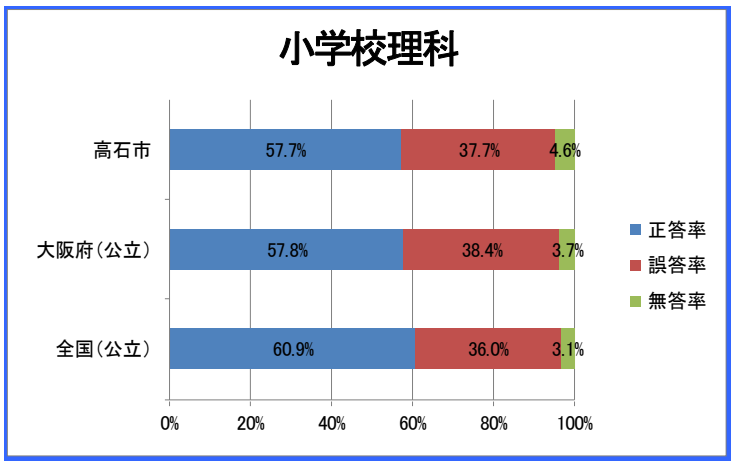
Ａ区分に見られる課題等について

◆Ａ区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全１８設問中０～６問正答した人数が、全国よりも少なくなっており、改善がみられるます。一方で１２～１４問正答した人数が多く、この子どもたちの力を伸ばすための取組みが引き続き進める必要があります。
◆領域別にみても、全体的に概ね全国と同じ傾向になっています。
◆設問別にみると、「小数のひき算」「分数÷整数」「四則の混合した計算」などの計算問題、「百分率」の理解を問う問題などに課題があります。
◆除法の意味を問う問題では、正答率が全国平均と概ね同じであるものの、他の問題に比べ、大幅に低くなっており、問題文と図、式の相互関係をとらえることに課題があります。
◆無答率については、今年度、全国よりも低い数値となっており、改善がみられます。

Ｂ区分に見られる課題等について

◆Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では全１３設問中０～３問正答した人数が、全国よりも多く、引き続き取組みを進める必要があります。
◆設問別としては、「示された考え方を基に、ひし形の面積の求め方を理解する」「与えられた条件を基に筋道を立てて考え、重さの求め方を数学的に表現する」問題等で課題があり、与えられた情報を基にして考える活用力を伸ばす取組みが求められます。
◆無答率については、全国よりも数値は高くなっていますが、改善がみられ、難しい問題にあたっても、解答を記述しようする姿勢で取組んだ様子がうかがえます。

小学校理科　結果から見えてくる課題



小学校理科問題

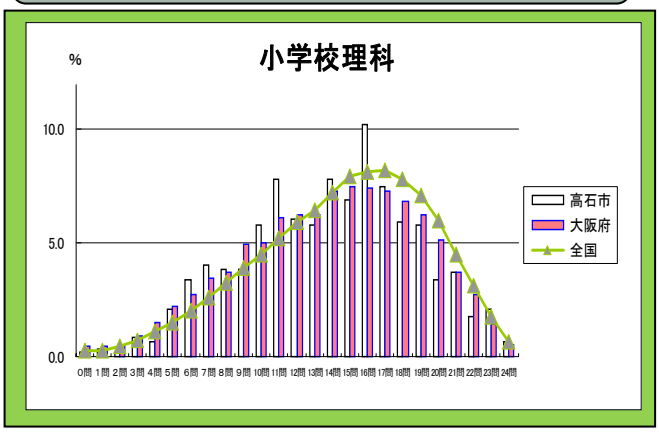
◆全国の平均正答率が 60.9%であるのに対し、高石市は57.7%であり、3.2ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より 1.5 ポイント高くなっている。

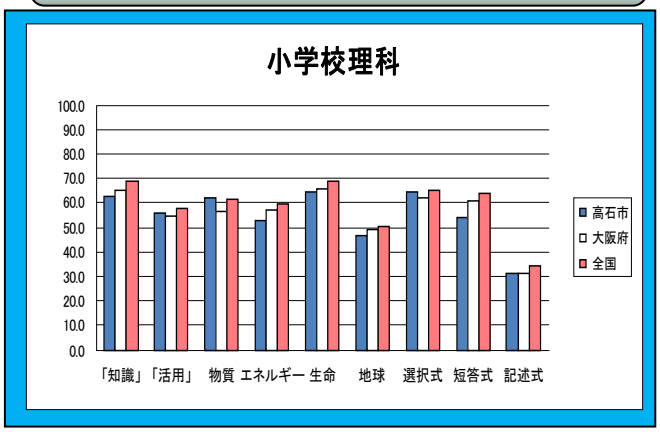
◆下のグラフ⑤《黄緑枠》より、正答率の分布について、全国に比べて分布の山が左寄りになっており、全体的に課題があることが分かります。全２４設問中０～４問正答した人数が、概ね全国と同じ傾向であるものの、１０問～１６問正答した人数が多く、１７問～２４問正答した人数が少なくなっています。

◆領域別にみると、次のグラフ⑥《空色枠》より、全国と比較してほとんどの領域・問題形式で平均正答率が低くなっています。特に、「エネルギー」の領域や「短答式」の問題形式に課題があることが分かります。

グラフ⑤：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



グラフ⑥：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



※主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題は、スペースの関係上「知識」、「活用」と省略標記しています。

小学校理科に見られる課題等について

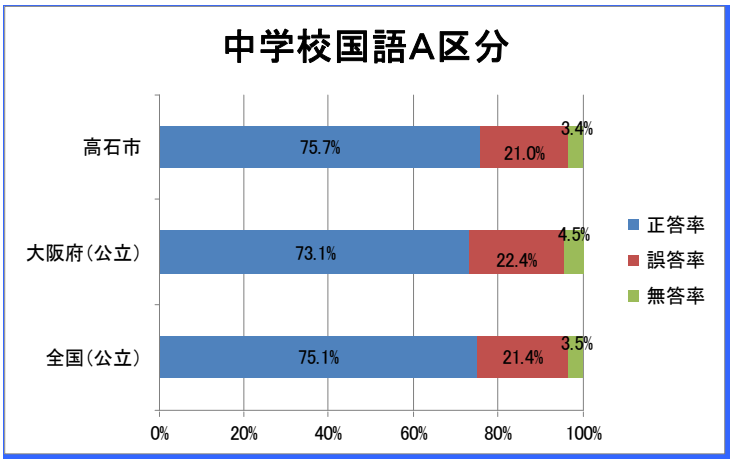
◆領域別にみると、「物質」を除いた各領域において、また、各問題形式に対しても、本市の正答率が全国を下回りました。特に「電気のはたらき」等の「エネルギー」の領域と既習の知識の内容を書く「短答式」の問題に大きな課題があります。

◆問題別にみると、「受粉」、「方位磁針」といった基本的な用語の定着や実験を行うために適切な「実験条件」、「実験方法」を選ぶこと、またその理由を答えることなどに課題があります。今後、事象と用語をしっかりと結びつけることや実験を行う際にはその目的や条件、方法等を考えながら実施していくことなど、理科により慣れ親しむ活動が急務であると考えます。

◆無答率について、全国との差も他の教科よりも数値が高い状況です。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要　【中学校】

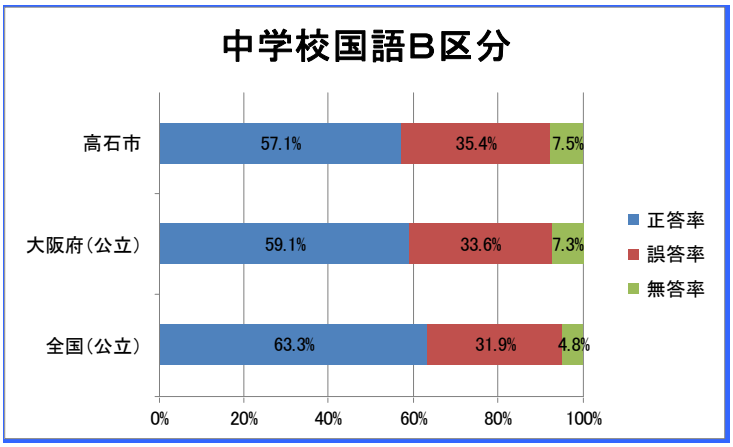
中学校国語　結果から見えてくる課題



A 区分問題（主として「知識」に関すること）

◆全国の平均正答率が 75.1％であるのに対し、　高石市は 75.7％であり、0.6 ポイント上回った。

◆無答率においては全国の状況より 0.1 ポイント低くなっている。



B 区分問題（主として「活用」に関すること）

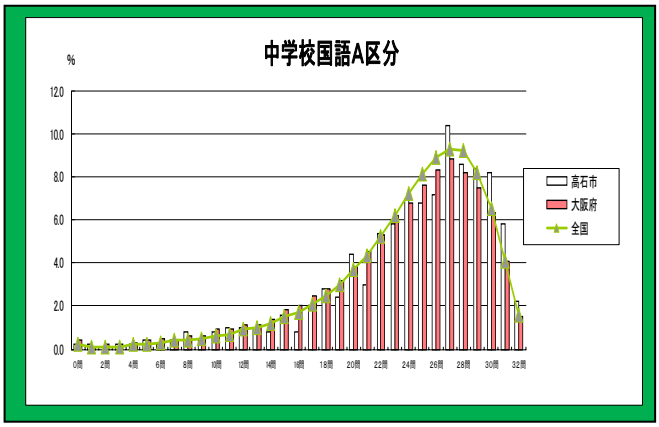
◆全国の平均正答率が 63.3％であるのに対し、高石市は 57.1％であり、6.2 ポイント下回った。

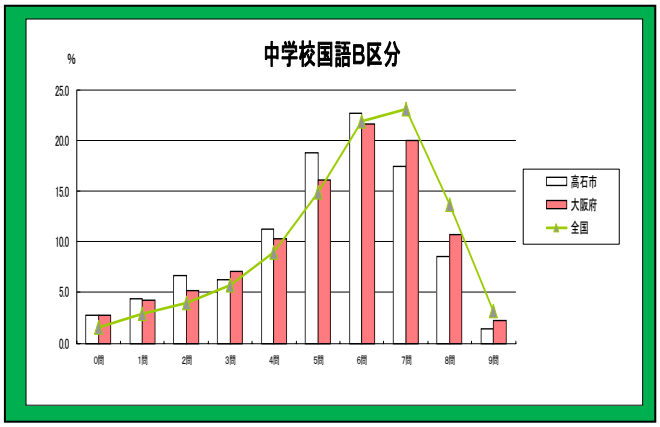
◆無答率においては全国の状況より 2.7 ポイント高くなっている。

◆正答数の分布については、下のグラフ⑦《緑色枠》より、A 区分（主として「知識」に関する問題）では概ね全国と同じ傾向であることが分かります。B 区分（主として「活用」に関する問題）の正答数の分布は、全国に比べて分布の山が左寄りになっており、全体的に課題がみられます。

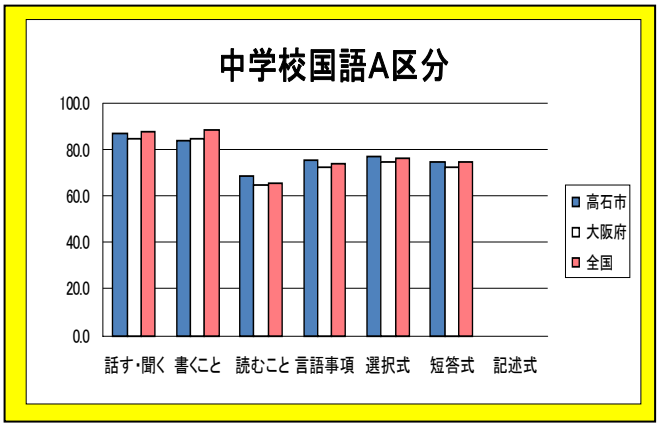
◆次ページのグラフ⑧《黄色枠》より、A 区分については、「書くこと」の領域で、B 区分では、「書くこと」「読むこと」の領域、「記述式」の問題で全国より低い結果となっていることが分かります。

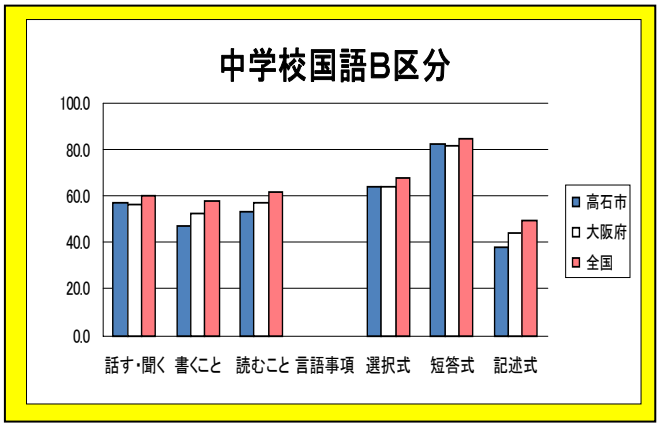
グラフ⑦：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ





グラフ⑧：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ





※「話すこと･聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す･聞く」と省略標記しています。

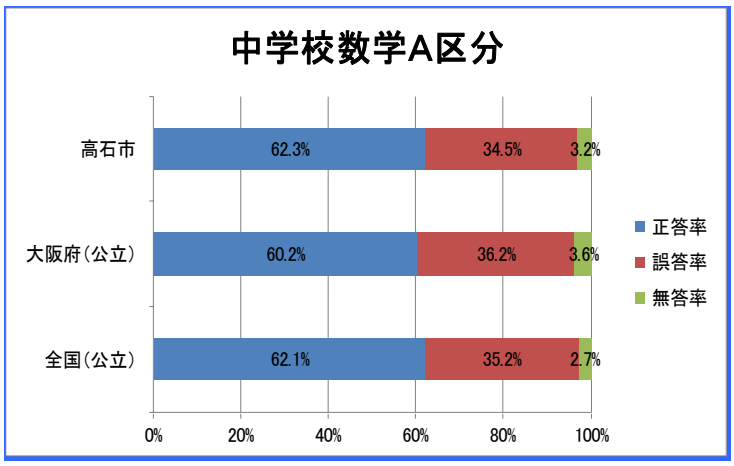
Ａ区分に見られる課題等について

◆Ａ 区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全３２設問中３０・３１問正答した人数が全国よりも多くなっています。
◆領域別にみると「言語事項」の領域、問題形式では漢字を読む・書く等の「短答式」の問題では全体的に高い正答率となっています。
◆しかし、「言語事項」の中でも、基本的な語句でありながら、日頃聞きなれていない、または聞くことが少なくなった言葉の読み・書きなどの問題の正答率が低くなっています。また、手紙の書き方、はがきの表書きなどについても同様の結果が出ており、近年使う機会が少ない内容について課題があります。
◆文章から目的に応じて必要な情報を読み取ること、書くことに課題があります。
◆昨年の課題であった無答率については、今年度、全国よりも低い数値となり、改善がみられます。

Ｂ区分に見られる課題等について

◆Ｂ 区分（主として「活用」に関する問題）では、正答数の分布では全９設問中０～３問正答した人数が、全国よりも多くなっており、引き続き取組みを進める必要があります。
◆設問別にみると、全設問について、正答率が全国平均よりも低い結果になっており、課題があります。
◆特に「書かれている情報の中から必要な内容を取り出し」、「その内容について自分の考えをもち」、「いつくかの条件に合わせ」、「伝えたい事柄が明確に伝わるように書くこと」という活動について、大きな課題があります。
◆「記述式」の問題では特に無答率が高い傾向が強くなります。これからも課題に沿った「書くこと」の活動を意識した指導についてさらに取組んでいく必要があります。
◆無答率について、依然、全国よりも数値は高くなっています。

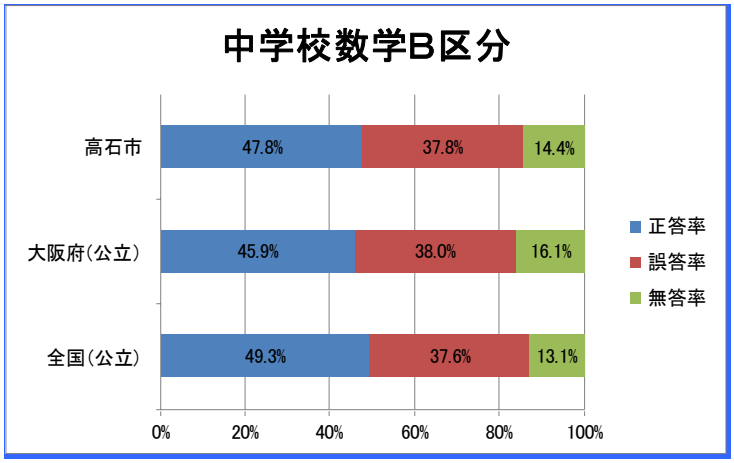
中学校数学　結果から見えてくる課題



A 区分問題（主として「知識」に関すること）

◆全国の平均正答率が62.1％であるのに対し、高石市は 62.3％であり、0.2 ポイント上回った。

◆無答率においては全国の状況より 0.5 ポイント高くなっている。



B 区分問題（主として「活用」に関すること）

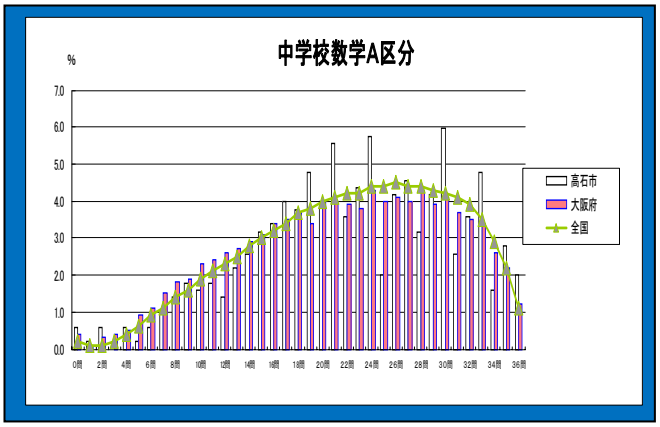
◆全国の平均正答率が 49.3％であるのに対し、高石市は 47.8％であり、1.5 ポイント下回った。

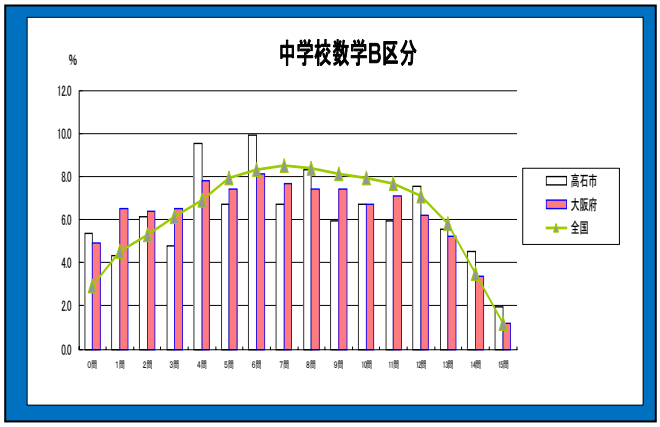
◆無答率においては全国の状況より 1.3 ポイント高くなっている。

◆正答率の分布については、下のグラフ⑨《青色枠》より、A 区分（主として「知識」に関する問題）・B 区分（主として「活用」に関する問題）ともに、少しばらつきがみられるものの、概ね全国と同じ傾向であることが分かります。

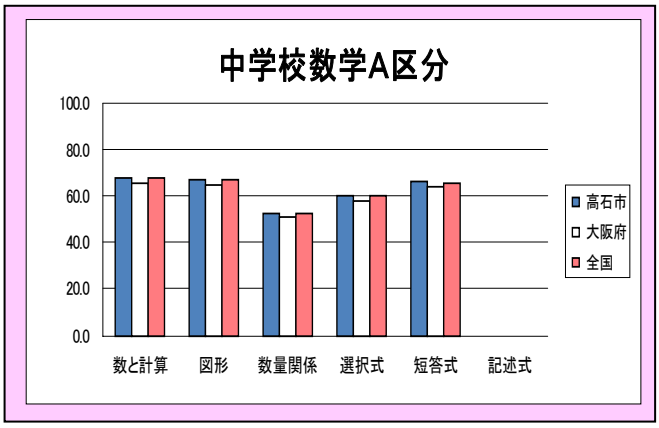
◆領域別にみると、次ページのグラフ⑩《桃色枠》より、A 区分ではどの領域・問題形式でも全国と比較して平均正答率が若干高く、B 区分ではどの領域・問題形式でも全国と比較して平均正答率が若干低くなっていることが分かります。

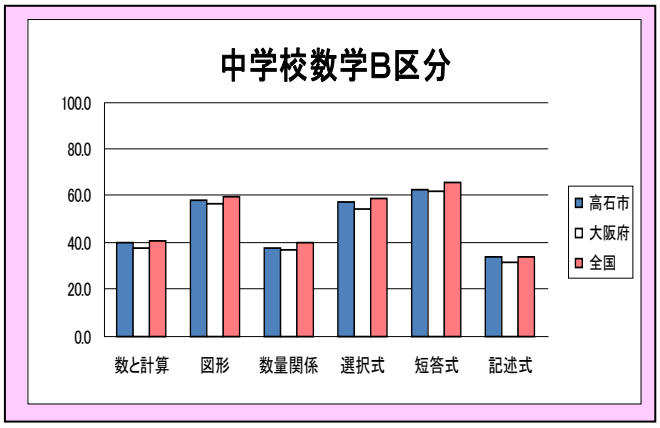
グラフ⑨：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ





グラフ⑩：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ





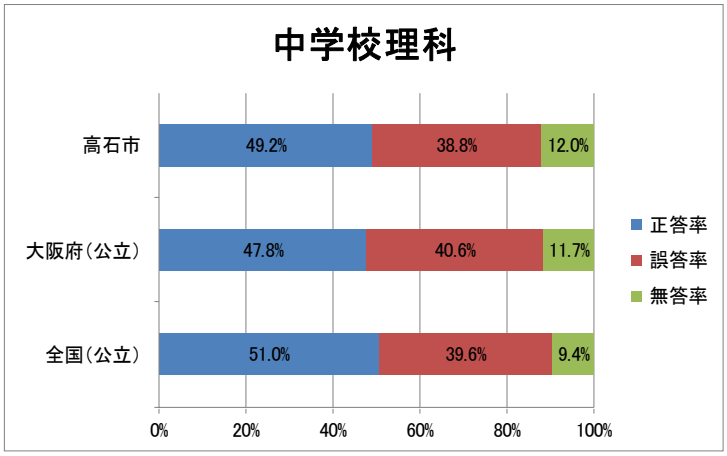
Ａ区分に見られる課題等について

◆Ａ 区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では全３６設問中３３・３５・３６問正答した人数が全国よりも多くなっています。一方で、０～４問正答した人数も多くなっており、よく理解できている子どもと、理解が不十分な子どもの二極化になっていることがうかがえます。
◆領域別にみると、全ての領域、問題形式においても、全国を若干上回る結果となりました。
◆問題別にみると、各領域において、その文字式が表す内容や意味を問われる問題や作図の条件を答える問題に課題があります。
◆根拠を明らかにする活動を通して、意味理解を深める学習に取組むことが必要です。
◆無答率について、依然、全国よりも数値は高くなっていますが、大阪府よりは低くなっており、改善がみられます。

Ｂ区分に見られる課題等について

◆Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）では、正答数の分布では全１５設問中１２・１４・１５問正答した人数が全国よりも多くなっています。一方で、０～４問正答した人数が、全国よりも多くなっており、Ａ区分と同じ傾向がみられ、引き続き取組みを進める必要があります。
◆領域別にみても、全国と比べて、全体的に正答率が低くなっています。
◆問題別にみると、「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること」に大きな課題があります。解答の中で「説明すべき事柄」と「その根拠」の両方を示して説明する力が弱いためと考えられます。今後も、考え方の筋道を立てて答えを導き出す経験をさらに積み重ねていく必要があります。
◆無答率について、依然、全国よりも数値は高くなっていますが、大阪府よりは低くなっており、改善がみられます。

中学校理科　結果から見えてくる課題



中学校理科問題

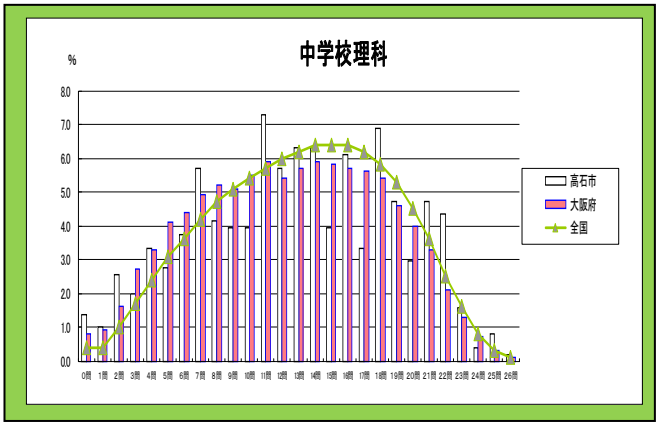
◆全国の平均正答率が51.0%であるのに対し、高石市は 49.2%であり、1.8 ポイント下回った。

◆無答率においては全国の状況より2.6ポイント高くなっている。

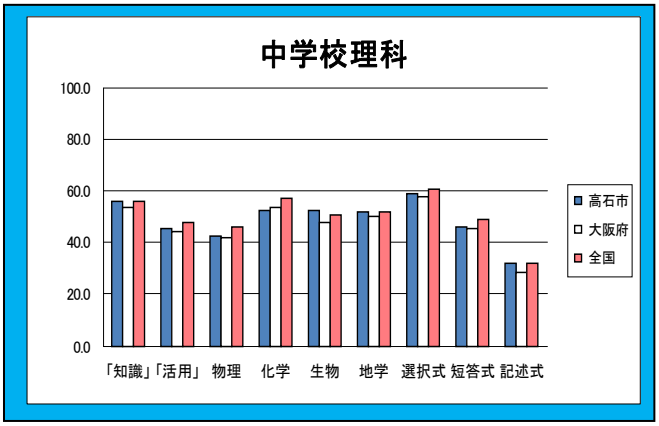
◆正答数の分布については、下のグラフ⑪《黄緑枠》より、少しばらつきがみられるものの、概ね全国と同じ傾向であることが分かります。

◆領域別にみると、次のグラフ⑫《空色枠》より、「生物」の領域では、全国を上回りますが、その他のほとんどの項目で全国を下回る結果になっており、課題があることが分かります。

グラフ⑪：正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



グラフ⑫：領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



※主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題は、スペースの関係上「知識」、「活用」と省略標記しています。

※「物理的領域」「化学的領域」「生物的領域」「地学的領域」は、スペースの関係上「物理」「化学」「生物」「地学」と省略標記しています。

中学校理科に見られる課題等について

◆正答数の分布では、全２６設問中２５・２６問正答した人数が全国よりも多くなっています。一方で、０～４問正答した人数も多くなっており、よく理解できている子どもと、理解が不十分な子どもの二極化になっていることがうかがえます。

◆領域別にみると、「物理的領域」「化学的領域」「短答式」の問題に特に大きな課題があります。

◆問題別にみると、「他者の考えの根拠を説明する」「他者の実験方法を検討し、正しい実験方法を説明する」など基礎的・基本的な知識の定着に課題があります。また、「実験結果から消費電力を比較して答える」「生物の成長の特性に応じて、飼育の環境を整えた理由を答える」といった記述式全般についても課題があります。

◆無答率についても、ほぼ全設問において全国よりも数値が高い状況です。

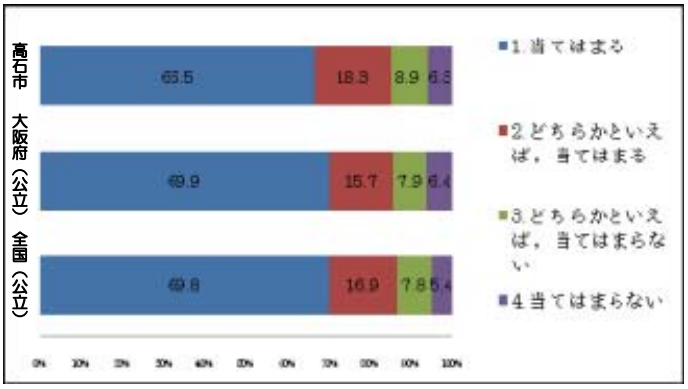
児童・生徒アンケートからわかる４つの傾向

傾向１：キャリア教育等の実施により、自分の将来について、前向きにとらえている傾向が見られる。

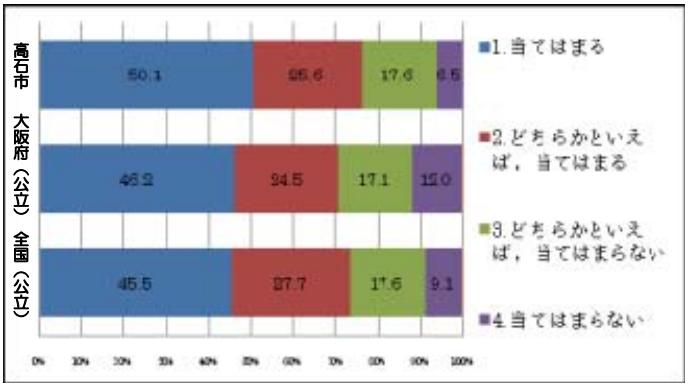
●〔グラフ１〕では、中学校において、将来への夢・希望を持っている生徒の割合が大阪府や全国よりも多くなっています。中学校において、職業体験学習等をはじめとするキャリア教育の取組みが、進んできていると考えられます。
●〔グラフ２〕より、小学校はもとより、中学校においても大阪府や全国よりも良好な回答が多く、人の役に立つことに対して前向きな考え（１・２と回答）を持つ子が多くなっていることが分かります。

〔グラフ１〕　将来の夢や目標を持っていますか

小学校

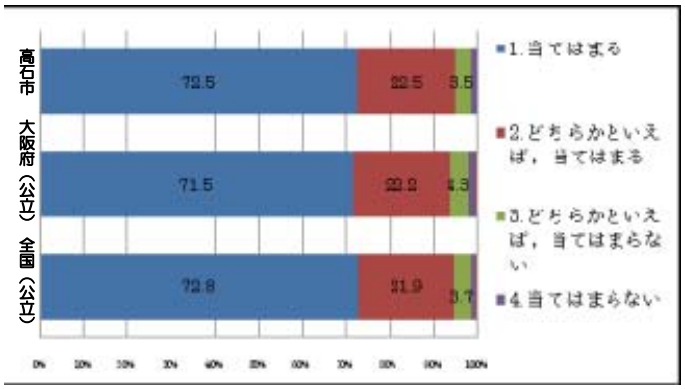


中学校

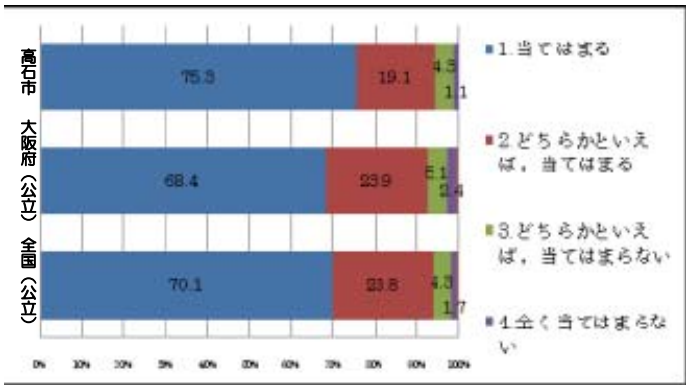


〔グラフ２〕　人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校



中学校



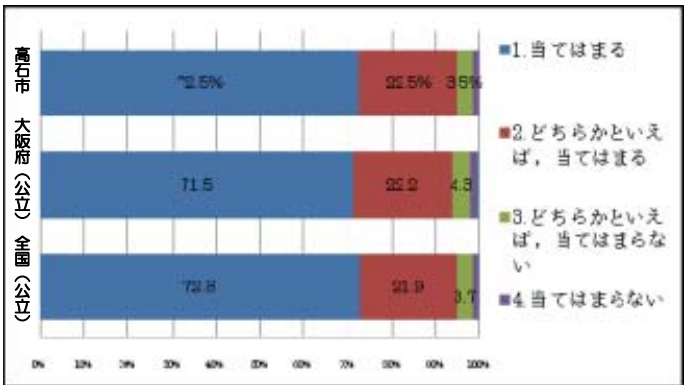
傾向２：人の気持ちがわかるようになりたいという前向きな子どもたちが多いが、その気持ちを、「いじめは絶対にダメ！」という行動に表せない子どもたちがいる。

●〔グラフ３〕では、「人の気持ちを理解したい」という考えや、「他者を思いやることの大切さ」ということについては前向きな考え（１・２と回答）を持つ子が、小・中学校とも大阪府や全国よりも多くなっています。しかし、〔グラフ４〕において、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と回答する子どもたちは、前向きな回答については大阪府や全国と比較して大きな差はないものの、「当てはまらない」と回答した子が小・中学校とも多くなっています。

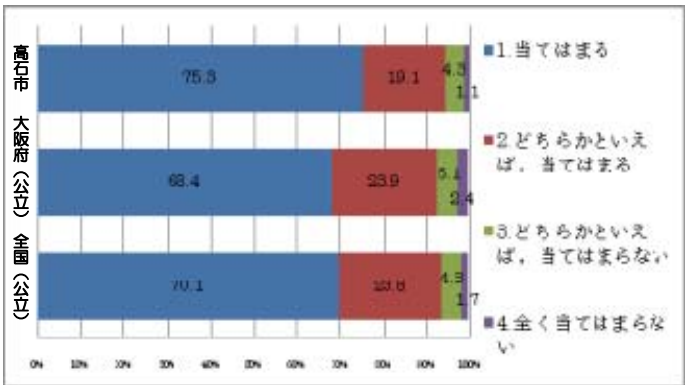
●子どもたちは、「他者を思いやる気持ちが大切である」という思いを持っているので、学校においては、「いじめはどんな理由があっても決して許されない」ということを再度、伝えることが必要です。そのことと併せて、家庭・地域を含む周囲の大人たち全体で連携して、いじめを決して許さないという態度を見せ続けていくことが必要です。

〔グラフ３〕　人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか

小学校

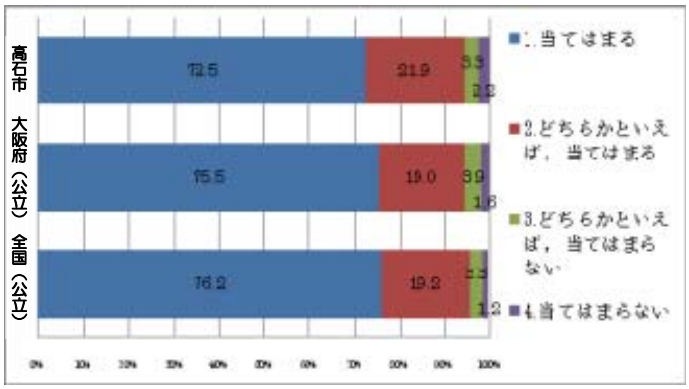


中学校

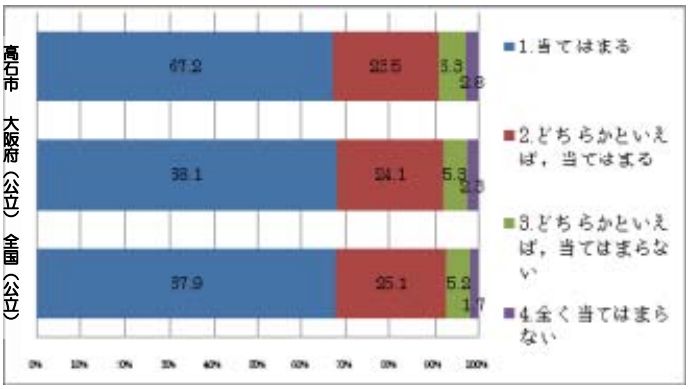


〔グラフ４〕　いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか

小学校



中学校

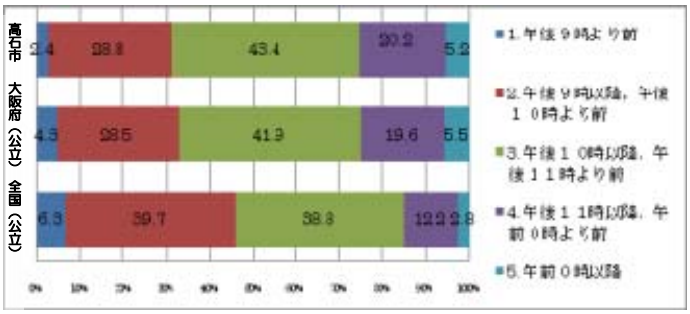


傾向３：日常生活における生活習慣や地域参加に課題はあるが、地域の方々の取組みが効果的に行われている。

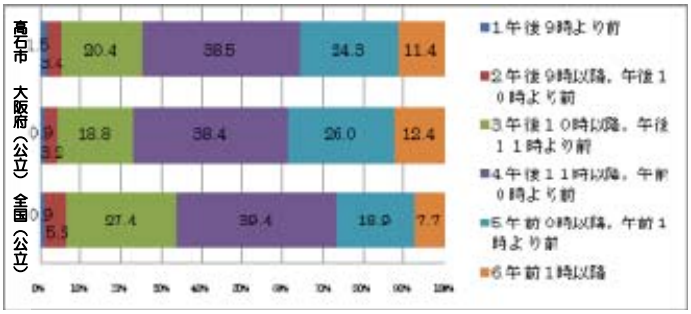
●〔グラフ５〕では、小・中学校ともに就寝時間が遅くなっており、特に小学校においてかなり遅い傾向が見られます。
●〔グラフ６〕では、家庭における地域参加が進展途上であることがうかがえます。しかし、〔グラフ７〕にあるように、中学生になると地域の方へのあいさつの意識は薄まるのが全国的な傾向ですが、本市においては中学生になってもさらに割合を増していることが分かります。これは、子どもの安全見まもり隊の活動をはじめとする地域の方々による日ごろからの声かけ等が、非常に効果を発揮しているためであると考えられます。

〔グラフ５〕　普段（月～金曜日），何時ごろに寝ますか

小学校

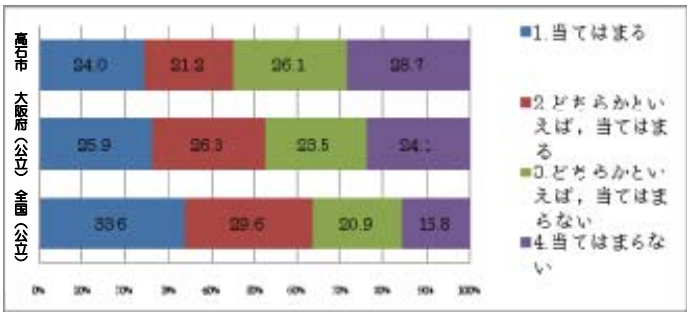


中学校

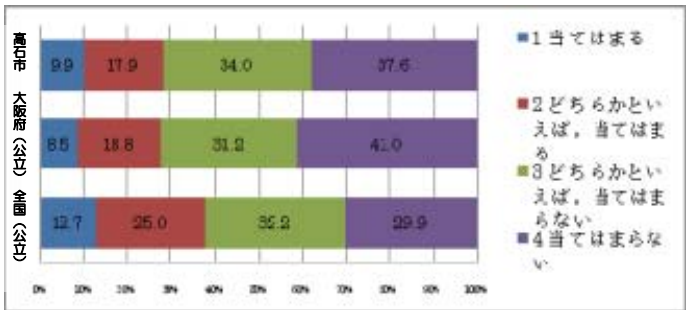


〔グラフ６〕　今住んでいる地域の行事に参加していますか

小学校

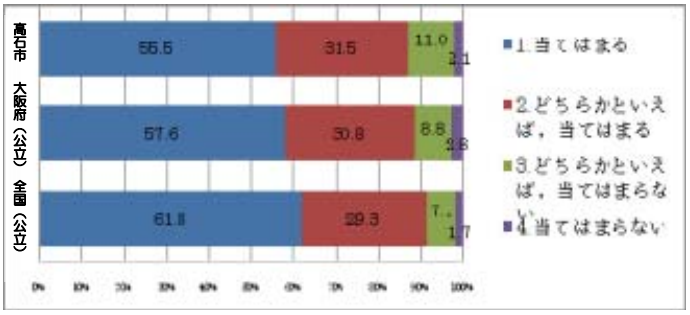


中学校

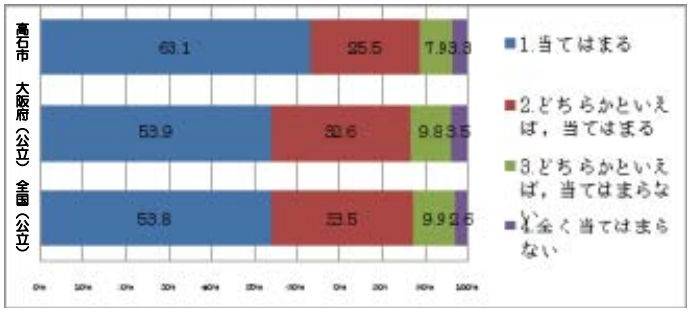


〔グラフ７〕　近所の人に会ったときは，あいさつをしていますか

小学校



中学校

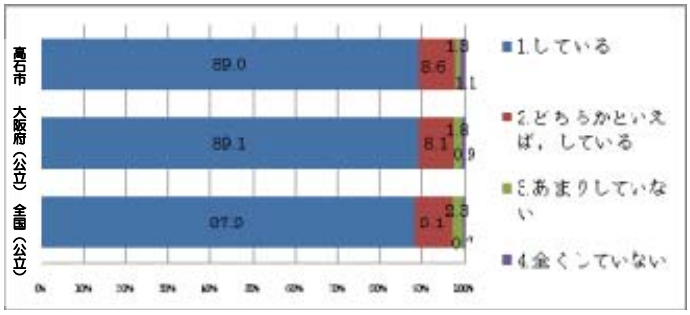


傾向４：家庭学習習慣の確立に課題がある。

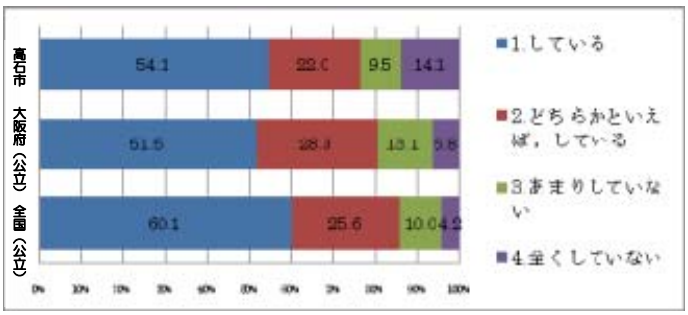
- 〔グラフ８〕では、小学校から中学校にかけて、宿題を家でする子が、大阪府や全国と比べても大きく減少しています。また、〔グラフ９〕において、塾に通う子の割合は、小・中学校とも大阪府や全国と比べて、かなり多くなっています。
- 〔グラフ１０〕からは、小・中学校ともに長い時間、家庭学習をする子が多い一方、「３０分より少ない」「まったくしない」子についても、大阪府や全国よりも多い割合となっており、２極化が顕著に進んでいることが分かります。
- 〔グラフ８〕及び〔グラフ９〕と合わせて考えた場合、学習塾（家庭教師を含む）に通っていない子の多くは、ほとんど家庭学習にも取組めていないことが分かります。今後、宿題の出し方、確認の仕方等の更なる改善とあわせ、家庭での学習習慣の確立に向けて、学校と家庭の両者が協働して引き続き取組んでいく必要があります。

〔グラフ８〕　家で，学校の宿題をしていますか

小学校

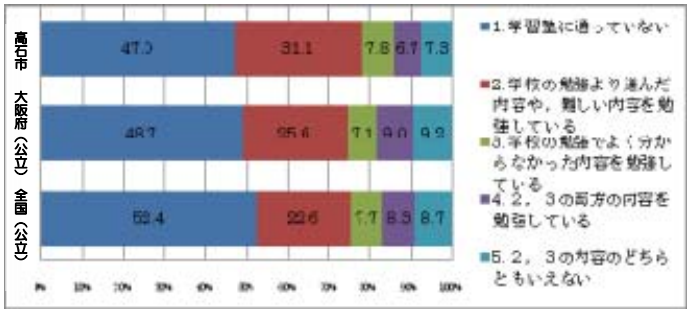


中学校

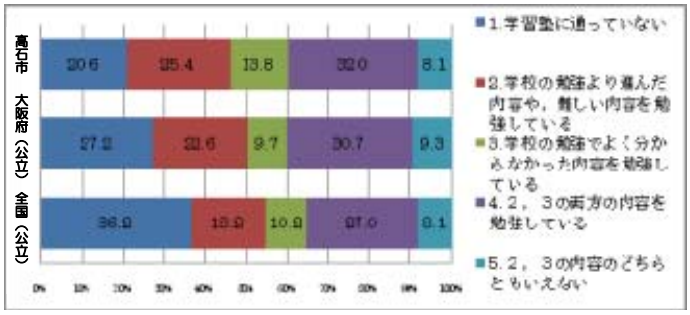


〔グラフ９〕　学習塾（家庭教師含む）で勉強をしていますか

小学校

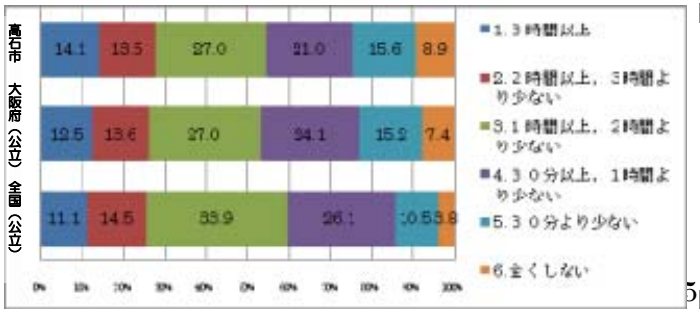


中学校

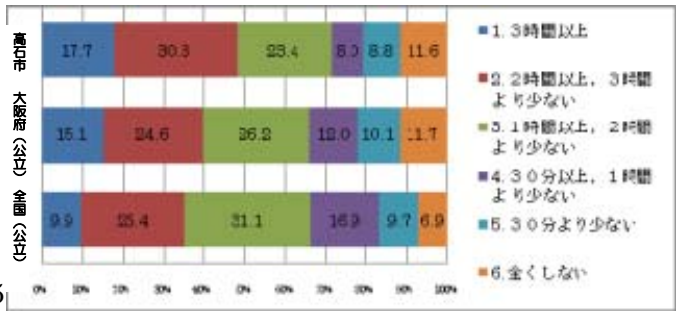


〔グラフ１０〕　学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）

小学校



中学校



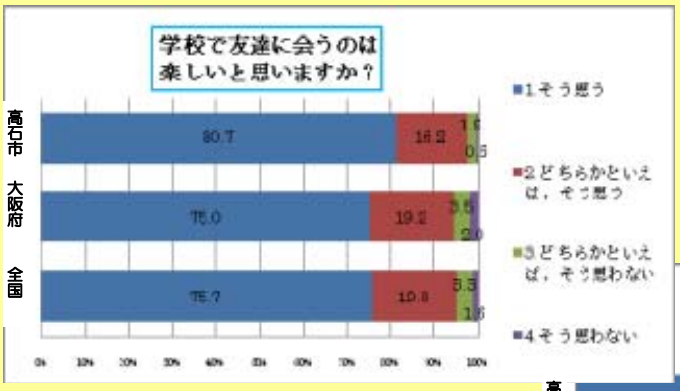
アンケート結果から見えた課題

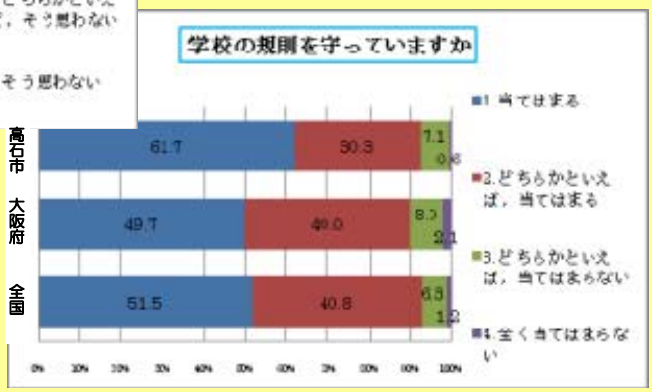
ここに取り上げたアンケート調査の内容については、高石市の子どもたちの学習状況や生活習慣の課題が見えるところを掲載しました。

その中で、『傾向１・２』にあるように、本市の子どもたちには、将来のビジョンを前向きな方向にとらえ、人として正しく生きていこうとする意志があるように見てとれます。ただ、いじめの問題に関しては、まだまだ正しいとらえが出来ていない子がいることも事実です。各学校において今後も今まで以上にいじめや人権の問題について考え、人権感覚を養う取組みが必要です。あわせて、各ご家庭においても、今回の大津市の事件などについて、日頃から話し合っていただけたら、と考えます。

ただ、今回のアンケート結果の中には、子どもたちの現状について、安心していただけるような結果もありました。

中学生へのアンケート結果から





どちらのアンケートも、大阪府だけでなく全国をも上回っています。これらの結果からは、思春期で多感な中学生ですが、本市においては健全な学校生活を送っていると考えていいのではないでしょうか。そのうえ、『傾向３』に見られるように、様々な課題が子どもたちにはあるものの、あいさつのアンケートからもわかるように、地域の方々の強力な応援もあります。周囲の健全な力で、この健全な子どもたちの力をより良く伸ばしていきたいと考えています。

さて、『傾向４』に見られるように、全国的にもその傾向はありますが、子どもたちの学習において、２極化が進んでいます。本市ではその傾向が全国よりも進んでいます。特に、家庭での学習習慣が確立されていない子どもたちが、少なからず存在します。各学校においても家庭での学習が進むよう、取組みの工夫が必要です。それを受けて、各ご家庭でも学習について子どもたちと話す機会を持ち、短い時間でも机に向かう習慣を、学校と家庭が協力して確立できるよう、教育委員会として取組みます。

調査結果から

全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察し、各教科及びアンケートから見た結果は、

「主として「知識」に関する内容」についての学習内容の定着

「昨年度課題であった無答率」の減少

という点については、一定の改善がみられることがわかりました。その一方で、

「文章から目的に応じて必要な情報を読み取ること、書くこと」

「考え方の筋道を立てて答えを導き出すこと」

という点において、依然として解消されていないことがわかりました。

これらへの対応策として、

・発表やグループ討議を取り入れた授業を増やすこと

・「書く」ということを重視した活動を増やすこと

を授業改善における目標としてきました。

今後も、**・「与えられた条件に合うように書く」活動**

・「伝えたい事柄が明確に伝わるように書く」活動

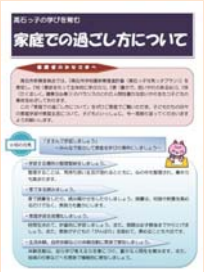
・「説明すべき事柄とその根拠の両方を示して説明する」活動

を大切にした取組みを進めていく必要があります。

また、昨年、児童・生徒アンケートからみえた課題として挙げました**「基本的な約束事項を守ること」**については一定の改善がみられることがわかりました。その一方で、**「家庭での学習習慣の定着」**については、課題が残っていることがわかりました。

これは学校だけでなく地域や家庭とともに子ども達につけていくべき力であると考えます。ページ下部には、**家庭学習を行う際に参考にしていただける資料及びワークシート**を掲載させていただいております。また、次ページには各学校・高石市教育委員会の取組みと、地域・家庭の皆様にご協力いただきたい点を記載してあります。今後とも高石市の教育にご理解、ご助力をいただきますようお願いしますとともに、地域・家庭の皆様と連携して高石市の子ども達をよりよい方向にはぐくんでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。

◆各学校から出されている家庭学習の手引き等



◆高石っ子の学びを育む　家庭での過ごし方について（平成２４年４月配布）

〇小学校１年生から中学校３年生まで家庭学習を行う際にヒントとなる
ポイント等についてまとめてあるリーフレットです。

◆自学自習力をはぐくむ　ワークブック問題（大阪府教育委員会が配信）

〇小・中学校全学年の児童生徒が、放課後学習や家庭学習において自主的に学習することができる教材です。各学校でも活用しています。

ＨＰアドレス　http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm

高石市教育委員会及び学校の取組み

☆教育委員会が中心となって取組んでいること

◈学習規律の確立をめざして授業の「けじめ」を重視した指導を行うと共に、家庭との連携をさらに進め、家庭学習や放課後等の補充学習の充実と授業改善とを両輪で推し進め、子どもたちの学習意欲を喚起する取組みを推進します。
◈各小・中学校では、各校工夫を凝らした学力向上のための施策を実施しています。さらに、その輪を中学校区に拡大し、合同の研修会や学力担当者会議等を開催することにより、情報交換と共有を行い、小中連携による学力向上のための取組みを行っています。
◈市の教育課題に応じた研修を積極的に行い、教職員の資質・指導力向上を図っています。
◈3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)の取組みを継続しています。
◈放課後や、長期休業期間に実施する補充学習へのボランティアを募集し、学校での学習のサポート活動を進めています。
◈幼小中の長期を見据えた連携に取り組み、公開授業等による研究成果発表と効果の検証を行いながら、子どもたちの課題に正対した取組みを進めています。
◈大阪府教育委員会と連携し、各学校での授業研究を中心とする校内研修の活性化を図り、授業改善に取組んでいます。

☆各学校が現在取組んでいること

（下記の内容は必ずしも全学校で取組んでいるのではなく、各小中学校が実態に応じて取組んでいます。）

◈学習におけるつまずきの把握と補充指導の充実
・放課後学習の充実
・長期休業期間中の学習会の充実・拡充
・「家庭学習の手引き」の改訂、配布
・効果的な宿題の取組み
◈指導内容・指導方法の工夫の推進
・習熟度別授業を取り入れた、少人数指導や複数教員による指導等、きめ細かな指導の充実
・基礎・基本の徹底と繰り返し学習の実施
・実験・観察などの活用場面を取り入れた授業研究
・児童・生徒のコミュニケーション能力を高めるため音読・話し合い・発表など子どもたちが授業の中で聞いたり、話したりする学びあいのある授業展開の工夫
・児童・生徒が不得意とする記述式の問題等への対応のための指導工夫
◈読書活動の一層の推進と充実
◈学習規律の徹底を図り、より一層の「落ち着いた授業」への取組み
◈あいさつ運動など基本的生活習慣の向上のための取組み
◈一人ひとりが尊重される集団づくりの実現
・人権教育及び道徳教育のさらなる推進

地域・家庭に協力いただきたいこと

◈「決まりを守る」ことの大切さを学校と共有していただき、携帯電話やゲーム機の使用など、家庭におけるルール作りと、そのルールの尊重について、子ども達と話し合っていただきたいと思います。
◈各校における「家庭学習の手引き」等を参考にしていただき、子どもの宿題の確認や、学校の予習・復習等の自主的な家庭学習に対する意欲向上のご協力をお願いいします。
◈ご家庭における読書の機会向上や子どもへの啓発についてご協力をお願いします。
◈学校のさまざまな学力向上等の取組み（授業支援・図書ボランティアや、放課後学習活動のボランティア等）についてご協力をお願いします。
◈ＰＴＡ活動へのご参加とご協力をお願いします。
◈各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。
◈学校と共にあいさつ運動や、早寝・早起き・朝ごはん運動など、基本的生活習慣の向上のための取組みへのご協力をお願いします。

小学校国語

2 六年生の白石さんの学級では、中学校での学習や生活への準備をするために、中学生にインタビューをすることにしました。インタビューは、「学習」・「部活動」・「学校行事」・「生徒会活動」の四つに分け、グループごとに行います。次は、白石さんのグループが、「部活動」に関する質問の内容を話し合っている様子です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【途　中　省　略】

先生　～（質問が出しつくされたところで、先生から助言が入る）～
この資料を見てください。これは、中学校の生徒会が、「部活動に対する満足度」について、中学二年生と中学三年生を対象に調査した結果をまとめたグラフです。質問を考える際の参考にしてください。
先生、ありがとうございます。この資料をもとにすると、中学生にどんな質問ができそうですか。

②白石（司会）　～（発表が続く）～
これまでに多くの質問を出してもらいましたが、ここで少し考えてもらいたいことがあります。
わたしたちのグループは、中学校での部活動に向けて、どのような準備をすればよいかということについて、質問をすることが大切です。この点をふまえて、さらに質問の内容を考えてみてください。
「部活動を決めるのは、入学してすぐなのか。いつまでに決めなければならないのか。」と質問をしたいです。その理由は、～（中略）～からです。
～（話し合いが続く）～

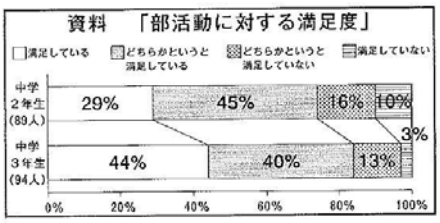
あなたの発表　ア

③白石（司会）　～（発表が続く）～

竹中　二　②白石（司会）さんは、グループの人たちに、資料「部活動に対する満足度」をもとにして、中学生に対する質問を出してもらおうとしています。あなたなら、ア のところでどのような質問を考えて発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉
○ 資料の中の中学二年生の割合と中学三年生の割合を比べてちがうこと、あるいは両方に共通していることを取り上げて、質問をしたいことをはっきりと書くこと。
（割合については、「%」と表記してもよい。）
○ 六十字以上、百字以内にまとめて、発表するように書くこと。

資料　「部活動に対する満足度」



解　説　Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）　2の（２）

資料「部活動に対する満足度」の帯グラフをもとに、中学生に質問したい内容を考える問題です。

① 帯グラフポスター「中学２年生」の割合と「中学３年生」の割合を比べて、「ちがうこと」あるいは、「両方に共通していること」を読み取ること。
② 読み取ったデータをもとに質問を考え、「班で発表する形式」で「決められた字数」にまとめてかくこと。

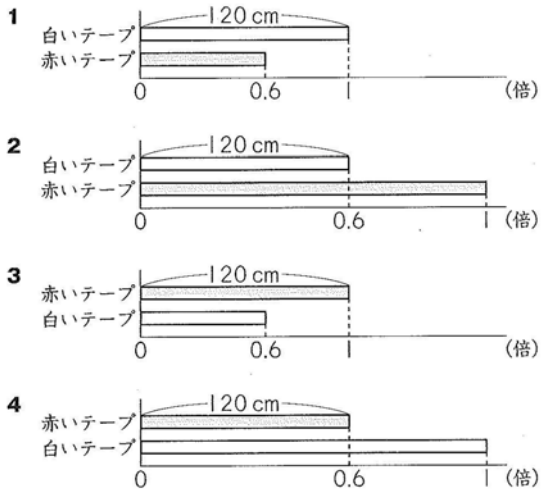
ができる力が求められます。
特に、②の活動を行う力に課題があることが分かります。

3

赤いテープと白いテープの長さについて，次のことがわかっています。

赤いテープの長さは 120 cm です。 赤いテープの長さは，白いテープの長さの 0.6 倍です。

(1) 赤いテープと白いテープの長さの関係を正しく表している図はどれですか。
次の **1** から **4** までの中から 1 つ選んで，その番号を書きましょう。



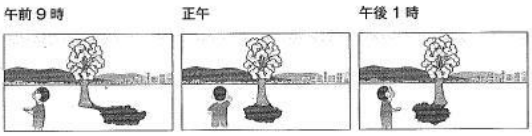
(2) 白いテープの長さを求める式を書きましょう。
ただし，計算の答えを書く必要はありません。

解　説　Ａ区分（主として「知識」に関する問題）　3の（１）（２）
問題文を読み、２つのテープの関係を図と式で表す問題です。

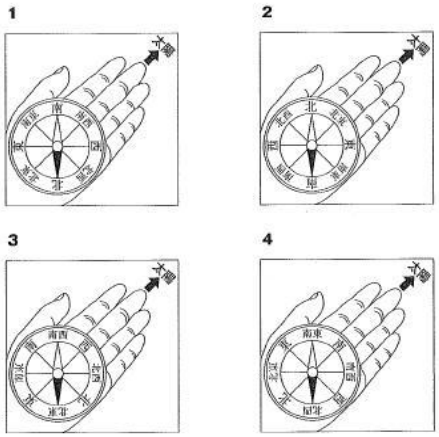
「赤いテープの長さは、白いテープの長さの０．６倍」という文章より「もとになる量」（１と考える量）を求めるので、使う演算は「わり算」になりますが、「０．６倍」という表記から「かけ算」の演算決定をしてしまう誤答がみられます。

この問題で本市や大阪府の結果から見える特徴は、（１）図を選ぶ問題、（２）式をかく問題、２つの問題の正答率にあります。（２）の問題を正解している児童は４割程度います。しかし、（１）と（２）の問題、両方を正解している児童は２割しかいません。
問題文をもとにして、２つの量の関係を図示する力、式をかく力どちらも大切ですが、今回、２つの量の関係を図示する力に課題があることが分かります。

4 三郎さんは，5月20日の1日の太陽の位置と木のかげの動きや長さを調べました。下の3枚の図はその時のようすです。



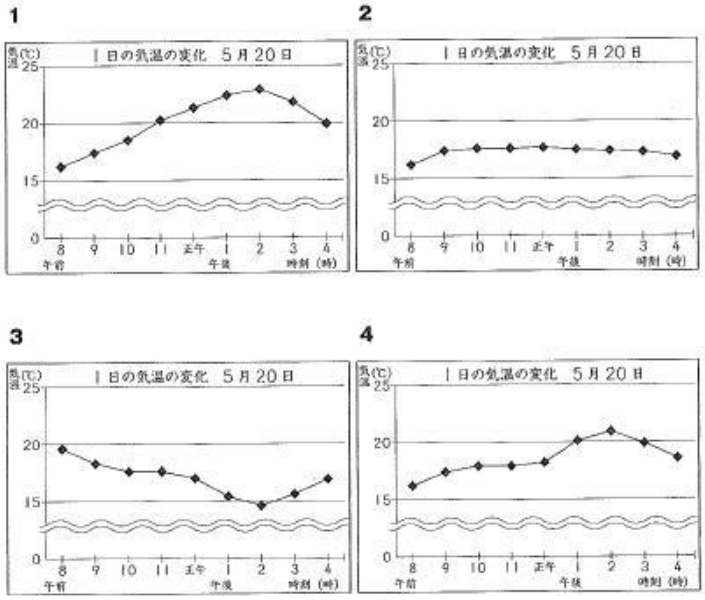
(1) 午後1時の太陽の方位を，正しく調べているのはどれですか。下の **1** から **4** までの中から1つ選んで，その番号を書きましょう。また，その時の**太陽の方位**を書きましょう。



(2) (1)で使った方位を調べる**道具の名前**を書きましょう。

(5) 三郎さんは，同じ日に気温をはかりました。

この日のかげのようすから1日の天気を考えると，気温の変化を表したグラフはどれですか。下の **1** から **4** までの中から1つ選んで，その番号を書きましょう。また，その番号を選んだわけを書きましょう。



解　説　4の（5）

「かげの観察記録」をもとに、天気の様子と気温の変化を表しているグラフを選ぶ問題です。

①「午前10時から正午前までは木のかげがありませんでした」
②それ以外の時間には木のかげが観察された。

1日の「かげの観察記録」をもとに、
①より「午前10時から正午前まではくもり」
②よりそれ以外の時間は晴れ
という天気の変化を読み取り、それに対応する気温の変化を考える必要があります。
複数の情報を関連づけて考える力に課題があることが分かります。

2 中村さんは、離れて暮らす祖母から「デジタルカメラで上手に写真が撮れない。シャッターボタンの押し方を教えてほしい。」と相談を受けました。そこで、次の【使用説明書の一部】を参考にして、祖母に分かりやすい説明書を作ろうと【祖母向けの説明書の下書き】を書いています。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【使用説明書の一部】

カメラにおまかせで撮る

1　シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

被写体にピントが合うと「ピピッ」と音がして，オートフォーカスフレーム（画面中央の四角い枠）が緑に点灯する。次のような場合は，ピントが合いにくいことがある。

（例）・動きの速い被写体
・近距離の被写体

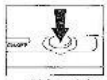
なお，ピントが合わないとオートフォーカスフレームが赤く点灯するので，指を離してからもう一度半押しする。

ピントが合うと，「ピピッ」と音がする。

半押し ⇨ シャッターボタンを抵抗を感じるところまで軽く押して，そのまま指を動かさないでいること。半押しすると，ピントが自動的に合う。

2　シャッターボタンを全押しして撮影する。

シャッター音がして写真が撮影される。シャッターボタンを押すときは，カメラが動いて手ブレが起きないように，静かに押し込む。



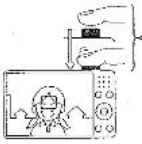
「カシャッ」と音がする。

全押し ⇨ 半押しの状態から指を離さずに，シャッターボタンを深く押し込むこと。

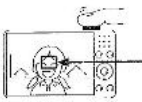
【祖母向けの説明書の下書き】

おばあちゃんへ

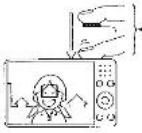
デジタルカメラのシャッターボタンの押し方をまとめましたので，参考にしてください。



① 撮りたいものにカメラを向けて，指が止まるところまで軽くボタンを押します。



②



③ ②でピントが合ったら，指を離さずに，ボタンを静かに最後まで押すと，「カシャッ」と音がして写真が撮れます。

上手に撮れたら写真を送ってくださいね。

3 【祖母向けの説明書の下書き】の［　］には，どのような説明を加えたらよいですか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお，読み返して文章を直したいときは，二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1　「緑」，「赤」，「ピピッ」という言葉をすべて使って書くこと。

条件2　六十字以上，八十字以内で書くこと。

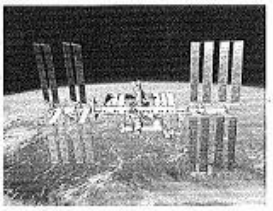
解　説　B区分（主として「活用」に関する問題）　2の（3）

デジタルカメラの使用説明書を祖母向けにわかりやすく書き換える問題です。

① 使用説明書に書かれている情報の中から必要な内容を読み取ること。
② 祖母向けに、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くこと。
③ 決められた条件に沿って書くこと。
が求められます。

目的や意図に応じて文章を書き換える力に課題があることがわかります。

1　下の表は，国際宇宙ステーション（ＩＳＳ）と気象衛星ひまわり７号についての情報です。



国際宇宙ステーション（ＩＳＳ）

気象衛星ひまわり７号の写真

気象衛星ひまわり７号

	ＩＳＳ	ひまわり７号
全長	約 108.5 m × 約 72.8 m（サッカーのフィールドと同じくらい）	約 30 m
地表からの高さ（高度）	約 400 km	約 35800 km
地球の周りを１周するときにかかる時間	約 1.5 時間	約 24 時間

次の（１），（２）の各問いに答えなさい。

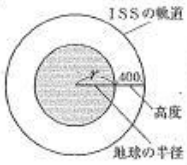
（１）地球儀を地球に見立て，地球とＩＳＳやひまわり７号の位置関係について考えます。ＩＳＳが地球儀の表面から 1 cm の高さを回っているとすると，ひまわり７号は地球儀の表面からおよそ何 cm の高さを回っていることになりますか。下のアからオまでの中から正しいものを１つ選びなさい。

ア　約 9 cm　　イ　約 16 cm　　ウ　約 36 cm

エ　約 90 cm　　オ　約 400 cm

（２）人工衛星が地球の周りを通る道すじのことを軌道といいます。
ＩＳＳとひまわり７号が地球を１周するときの軌道の長さの差は，次のように求めることができます。

右の図のように，地球を半径 r km の球，人工衛星の軌道を円とすると，ＩＳＳの軌道の半径は $(r+400)$ km，軌道の長さは $2\pi(r+400)$ km となります。
ひまわり７号の軌道の長さも同じように考えると，２つの人工衛星の軌道の長さの差は，次のように計算できます。



$$
\begin{aligned}
&2\pi(r+35800)-2\pi(r+400)\\
&=\cancel{2\pi r}+2\pi\times35800-\cancel{2\pi r}-2\pi\times400\\
&=2\pi\times35800-2\pi\times400\\
&=2\pi\times(35800-400)\\
&=2\pi\times35400\\
&=70800\pi
\end{aligned}
$$

このように，２つの人工衛星の軌道の長さの差は約 70800π km であることが分かります。
上の［　　］からは，この軌道の長さの差について，さらに分かることがあります。下のア，イの中から正しいものを１つ選びなさい。また，それが正しいことの理由を説明しなさい。

ア　軌道の長さの差は，地球の半径の値によって決まる。

イ　軌道の長さの差は，地球の半径の値に関係なく決まる。

解　説　Ｂ区分（主として「活用」に関する問題）　1の（２）

国際宇宙ステーション（ISS）とひまわり７号の情報から、それぞれの高度を読み取り、軌道の長さの差について考える問題です。

２つの人工衛星の軌道の長さの差は、問題文の中で既に求められています。
この問題では、長さの差を求める計算を元に、軌道の長さの差が地球の半径の値「ｒ」に関係なく決まることの理由を説明できるかどうかみる問題になっています。
つまり、計算を行う力ではなく、式の意味・理解がきちんとできているかをみる問題であり、今回の結果より、式の意味・理解に関して課題があることがわかります。

自宅での考察

実験を終えて，昌夫さんは帰宅しました。そして，自宅で白熱電球を使用している場所と状況を調べ，次の図4のようにまとめました。

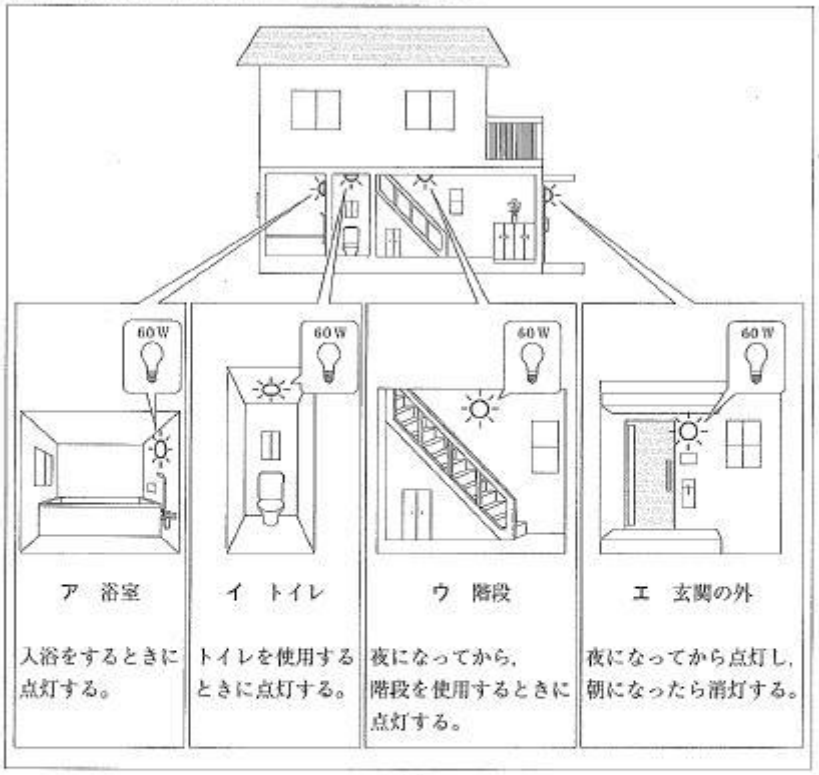


図4

（5）昌夫さんの家では，使用する場所などに適した９WのＬＥＤ電球（白熱電球60Ｗ形相当として販売）を１個購入し，60Ｗの白熱電球と交換することにしました。どの場所の白熱電球をＬＥＤ電球に交換すると，消費する電力量を最も減らすことができますか。図４のアからエまでの中から１つ選びなさい。また，選んだ理由を書きなさい。

（6）昌夫さんは，60Ｗの白熱電球と９WのＬＥＤ電球を，それぞれ１時間使用する場合に消費する電力量の差を求めることにしました。これらの電力量の差は何kJですか。式と答えを書きなさい。ただし，1000Ｊ＝１kJです。

解　説　2の（６）

白熱電球と LED 電球の消費電力を調べるために行ったモデル実験の結果をもとに、自宅の電球を交換する日常的な場面において、電力量を考える問題です。

電力量〔J〕＝電力〔W〕×時間〔ｓ〕（①）であり、１時間を３６００秒（②）と換算して計算することができるとともに、１時間白熱電球の消費する電力と LED 電球の消費する電力の差を求め（③）、電力量の単位を J から KJ へと変換する（④）。

上記の①～④の４つの知識の定着と計算作業をきちんとできる力が求められます。
本市および全国において、概ね同じ傾向である（正答率が低く、無答率が高い）ことからも、学習した内容を日常生活の課題へつなげていく活動に課題があることが分かります。